

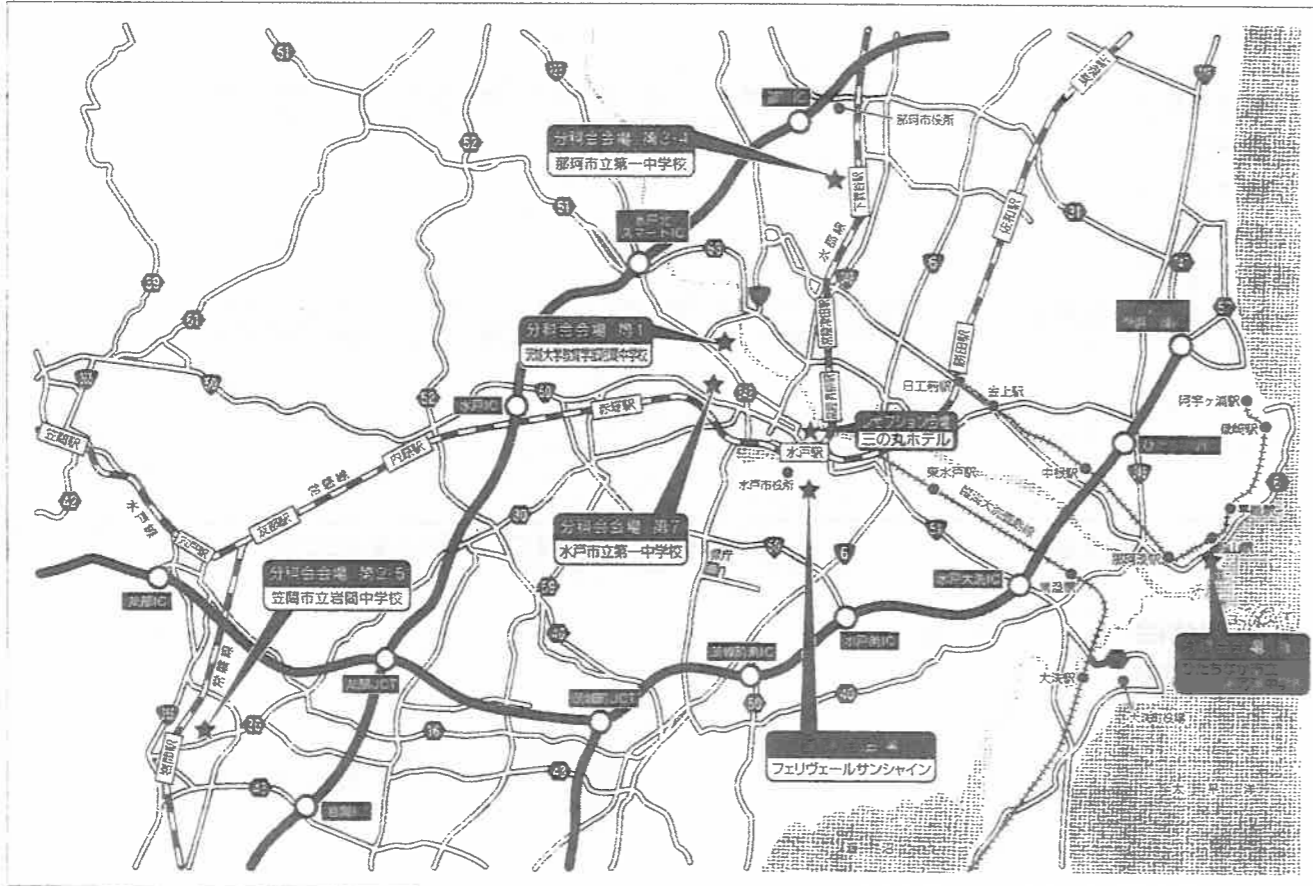
8 参加費について 4,000円

9 レセプションについて
○会費 6,000円 ○会場 三の丸ホテル
気軽にご参加ください。事前に申し込みが必要です。

10 参加申し込み方法
別紙の「参加申込のご案内」をよく読み、「大会参加・昼食・レセプション・宿泊申込書」に必要事項を記入の上、申し込んでください。近畿日本ツーリストより請求書が届いた後、入金をお願い致します。

◎参加申込締切 平成25年10月4日(金)
◎参加費納入締切 平成25年10月18日(金)

会場案内図



- ★レセプション 三の丸ホテル 水戸市三の丸2-1-1 電話 029-221-3011
- ★全体会 フェリヴェールサンシャイン 水戸市白梅2-3-86 電話 029-248-1122
- ★分科会 茨城大学教育学部附属中学校(第1分科会)
水戸市文京1-3-32 電話 029-221-3379
- 笠間市立岩間中学校(第2・5分科会)
笠間市下郷4997-1 電話 0299-45-2624
- 那珂市立第一中学校(第3・4分科会)
那珂市後台2547 電話 029-298-0040
- ひたちなか市立那珂湊中学校(第6分科会) ※旧県立那珂湊第二高等学校
ひたちなか市牛久保1-10-18 電話 029-262-4349
- 水戸市立第一中学校(第7分科会)
水戸市東原3-1-1 電話 029-224-2424

※水戸駅(南口)から全体会場までは、徒歩または貸切バスをご利用ください。
※全体会場から分科会会場の移動は、できるかぎり貸切バス(直通)をご利用くださいますようお願い申し上げます。
※ひたちなか市立那珂湊中学校の校舎は、旧県立那珂湊第二高等学校になります。お間違えないようお願いいたします。

お問い合わせ先
茨城大会実行委員会事務局 水戸市立第二中学校 大和田 直樹
〒310-0011 水戸市三の丸2丁目9-22
TEL 029-224-4422 FAX 029-224-4423

平成25年8月

各教育委員会 教育長 様
各都県国語教育研究会会長 様
各中学校長 様

全関東地区中学校国語教育研究協議会会長
茨城県教育研究会国語研究部長
茨城大会実行委員長 常井 一志

第56回全関東地区中学校国語教育研究協議会茨城大会

第二次案内(最終)

【大会主題】
言葉の豊かさに触れる喜びを味わい、自らの言語生活に生かす国語科教育の創造

- 1 主催 全関東地区中学校国語教育研究協議会
茨城県教育研究会国語研究部
- 2 後援 茨城県教育委員会 茨城県学校長会 茨城県教育研究会 茨城県教育会
茨城県市町村教育長協議会 水戸市教育委員会 笠間市教育委員会
ひたちなか市教育委員会 那珂市教育委員会 常陸大宮市教育委員会
城里町教育委員会 公益財団法人日本教育公務員弘済会茨城支部
- 3 日時 平成25年11月7日(木)・8日(金)
- 4 日程及び会場
11月7日(木) 三の丸ホテル
理事会 16:30~17:20(受付 16:00~)
レセプション 17:30~19:30(受付 17:00~)
11月8日(金)
全体会〔開会行事・記念講演〕 9:00~ フェリヴェールサンシャイン
分科会〔公開授業・授業研究協議会・研究発表協議会〕 13:00~
第1 茨城大学教育学部附属中学校 第2・5 笠間市立岩間中学校
第3・4 那珂市立第一中学校 第6 ひたちなか市立那珂湊中学校
第7 水戸市立第一中学校

8:30	9:00	9:50	11:00	13:00	14:00	14:40
受付	全体会	記念講演	分科会 会場移動	昼食	公開授業	授業研究 協議会
	9:40	12:55	13:50	14:40	16:20	研究発表 協議会

5 記念講演
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 富山 哲也 先生

6 基調提案概要
本研究のねらいは、相手や目的、場面や状況に応じて適切に表現する力、国語を正確に理解する力を育成し、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高め、論理的な思考力や想像力を養うとともに、生徒自らの言語生活を豊かに送ることができるよう、言語の豊かさに触れ、生活に生かす国語科授業の指導について研究することである。
本大会では、このねらいに迫るために以下の点を重点事項として研究実践に取り組んだ。
① 言葉で伝え合い、交流することで自らの表現力を高める指導
② 文章を理解・評価しながら読んだり、書いて考えを深めたりする活動の指導
③ 言語の働きや伝統的な言語文化及び日本語の特質について理解を深める指導
④ 小学校・中学校の国語科における一貫教育の在り方と系統的指導
今回、伝統的な言語文化に関する事項として書写部会を、言語活動・言語生活の系統的・継続的指導として小中一貫教育部会を設け、授業部会と発表部会の計14の分科会で研究実践に取り組んできた。この茨城大会で、確かな言語能力とともに国語を尊重する態度の育成を目指した研究を提案していきたい。

7 授業者・発表者・指導助言者一覧

第1分科会 話すこと・ 聞くこと	授業者 茨城大学 教育学部 附属中学校 教諭 矢崎 寛子	言語で伝え合うことの大切さを実感できる指導の工夫 —チャート式話し合い活動を通して— 前年度、3年生の「チャート式による話し合い」を公開した。そこでの課題を踏まえ、2年生での「チャート式話し合い」についての授業をする。また、単元を貫く課題解決的な言語活動を目指し、言語活動の充実を図る。それらの手立てが異なる立場や考えを想定した上で相手の立場や考えを尊重し、目的に沿った話し合いを成立するカギとなるか参観していただきたい。	助言者 水戸市総合 教育研究所 指導主事 徳武 弘幸
	発表者 牛久市立 牛久南中学校 教諭 齋田美代子	異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、資料を効果的に活用して話す力を育てる国語科学習の指導の在り方 —第2学年「説得力のある提案をしよう」における 実生活につながる言語活動と観点をもった交流を通して— 本研究は「レポート作成→プレゼンテーション→最も説得力があった提案の実践→職場体験学習→1年生への「職場体験学習会」の実施」の流れで、実生活と関連付けて実践した。総合的な学習の時間と関連付けることで、国語科で身に付けた力が実生活の中で生きることを実感し、より確かなものにできるように工夫した。また、生徒が観点を意識して交流することで、話す・聞く力を身に付けていった過程を見ていただきたい。	県南教育事務所 指導主事 小島 健
第2分科会 書くこと	授業者 城里町立 常北中学校 教諭 伊藤 智之	地域の素材を題材とし、考えを交流することで、 いきいきと表現する力を高める指導の工夫 いきいきと描き出そう—俳句から始める物語— 中心となる言語活動は「表現の仕方を工夫して、詩歌をつくらたり物語などを書いたりすること」である。指導上での工夫したのは以下の2点である。一つ目は物語を創作する材料として地域の伝承や特産物を扱ったことである。二つ目は指導事項の「記述」の段階で「交流」を行うことで、物語の描写についての自らの考えを広めたり深めたりし、自分の表現に役立てるようにしたことである。	城里町 教育委員会 指導主事 高木 輝夫
	発表者 古河市立 三和東中学校 教諭 中根 創	「観る」「考える」「表現する」段階的な作文指導の在り方 —ディベカッションを取り入れたこれからの書く活動を通して— 今回の研究実践の中で新しい取り組みは3点ある。第1に批評文を書く手段として、「観る」「考える」「表現する」段階的な作文指導を実践することである。第2に「ディベカッション」という討議方法を取り入れて書く活動に生かすことである。第3に書いた後に「相互批評」を取り入れることである。この3点を取り入れることで、生徒の書く意欲や書く内容にどのような変化が見られたのかを検証した。	県西教育事務所 指導主事 石塚 浩司
第3分科会 読むこと (説明的な 文章)	授業者 那珂市立 第一中学校 教諭 加藤 芳宏	目的に応じて情報を読み取る力を育てる指導の在り方 —選んだ意図に沿って、ニュースを編集する学習活動を通して— 「ニュースの見方を考えよう」(新しい国語 I 東京書籍)の学習を通して、研究主題に迫る。単元を貫く言語活動は、「選んだ意図に沿ったニュースの編集」である。模擬体験を通して、目的や意図に応じ、様々な本や文章を読み、内容や要旨を的確に捉える能力を身に付けさせたい。本日は、中間発表会や、前後の編集内容を比較・検討する学び合いなどにより、読み取りを確かなものにする学習活動を公開する。	那珂市 教育委員会 指導主事 長山 達也
	発表者 桜川市立 桃山中学校 教諭 安蔵 明弘	説明的な文章から自分の考えを深めていく学習過程の工夫 情報検索で開ける世界—サイエンスライターになって、 筆者にオリジナル作品を送ろう— マナー化した説明文学習からの脱却を図るために、「読むこと」と「書くこと」を相互に関連させることによって学習過程を工夫し、生徒の主体的な活動と読みの深化を重視した。教材文を読み進めながら、「教材文と類似した具体的な例」と「自らの考察」を書き加えた。そのことによって生徒が、教材文筆者と同じサイエンスライター(科学的な文章を書く作家)になりきってオリジナル作品を完成させ、筆者に送る言語活動を設定した。	筑西市 教育委員会 指導主事 岩崎 信子
第4分科会 読むこと (文学的な 文章)	授業者 常陸大宮市立 美和中学校 教諭 大藤 一也	読むこと(文学的文章)における学びあいを通して自分の考えを深める力の育成 —言語活動の充実、学習形態の工夫を通して— 本授業部会では今回の授業にあたって「並行読書」「リライト」「交流」の三つの言語活動を柱に、学習指導要領「C読むこと」のこの指導事項の達成を目指す授業を構想した。 リライトとその交流によって父親の心情に迫ろうとするものであるが、父親の心情理解のみに終始する学習ではなく、そこから一般化を図って、文章そのものを丁寧に読み込むことの大切さに気付くことができる授業を目指したいと考えている。	大子町 教育委員会 指導主事 清水洋太郎
	発表者 日立市立 多賀中学校 教諭 菅原 正洋	文学的文章における主体的な読みを育てる国語科教育の在り方 —単元を貫く課題解決的な活動を通して— 1~3学年まで、単元を貫く課題解決的な活動を設定した授業実践を行うことで、生徒が学びの目的を明確にもち、主体的な読みにつなげることができると考え、研究テーマとした。「故郷」では、「本の「効き目」を探ろう」という言語活動を設定し、魯迅が読者に期待した「効き目」を、叙述から根拠を明確にして読み取り、交流する学習活動を設定した。考えの交流を通して生徒の学びがどのように深まり、変化したのか検証したい。	県北教育事務所 指導主事 滝 人司

第5分科会 伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項 (古典)	授業者 笠間市立 岩間中学校 教諭 吉川 裕之	古典の世界を楽しむ国語科学習の在り方 —徒然草に表れた筆者のものの見方や考え方に触れる活動を通して— 発展的な学習として徒然草の他の抄段を読み、兼好法師のものの見方や考え方に触れる。自分で興味をもった段から取り組み、自分で読み取ったことを根拠にして、筆者の主題に迫り、兼好法師の考えや見方を自分の言葉で端的に表す。グループでの話し合いを通して、他の考え方に気付いたり、自分の考えを深めたりして古典の世界を楽しく味わっていききっかけにしたい。	笠間市 教育委員会 指導主事 菊池 由美
	発表者 北茨城市立 磯原中学校 教諭 菊地 淳	古典に親しむ態度を育てる国語科学習指導の在り方 —「平家物語」における「読むこと」の活動を通して— 平家物語で、古典に親しむ態度を育てるためには、内容をよく理解することが必要であると考えた。そのためには、当時の武士の生き方や心情の理解を深める事が大切である。視聴覚教材を使った導入の工夫、紹介カードを使い友だちに紹介するという交流学習活動を実践した。その過程で、自分の考え方や他者の考え方を比較検討していく中で、武士の生き方や心情について考えを広げたり深めたりし、古典に親しみをもてるように工夫した。	日立市 教育委員会 指導主事 石川 尚子
第6分科会 伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項 (書写)	授業者 ひたちなか市立 那珂湊中学校 教諭 長谷川広明 小林 聖	話し合いを通して、よりよい書写作品を作ろうとする態度の育成 —地域のコミュニティ祭に出品する掲示物の制作を通して— 書写の授業では、手本を横に置き、静寂の中書き続ける。そして手本に最も近い作品を一枚提出する。 今回の研究では、そのような書写の学習過程を見直し、教師の用意した手本を置かず生徒同士の話し合いをもとに、より良い書写作品を作ることを目指す。生徒たちが活発に話し合い、さらに良い書写作品を作ろうとする姿が見どころである。	ひたちなか市 教育委員会 指導主事 飯村 祐一
	発表者 神栖市立 神栖第三中学校 教諭 長末 直樹	書写の能力を言語活動に役立てるための基礎・基本の定着と態度の育成 —目的や必要に応じて文字を効果的に書くための活動の展開を通して— 楷書とともに行書を書く授業を通し、いろいろな筆記具を使って行書に慣れ親しむことを活動の中心においた。様々な場を設定しながら、状況に応じて配置・配列を考え、効果的に文字を使う機会を増やしてきた。 本実践を通し、単元または1時間の指導の過程での問題点、小学校から中学校に渡って考えられる課題などが見えてきたことは収穫であり、今後の改善点や新しいアイデアがあれば参観者の方と一緒に考えていきたい。	鹿行教育事務所 指導主事 遠藤 智幸
第7分科会 小中一貫教 育	授業者 水戸市立第一 中学校 教諭 蛭原 善明 水戸市立常盤 小学校 教諭 飯田 真弓	古典に親しむ態度を育てる国語科学習の在り方 —9年間の学びの系統性を踏まえた小中学生の交流を通して— 「おすすめの古文を小学生に紹介しよう」という言語活動を設定し、小学生との交流に向けて、紹介する古文の原文や資料を読んだりまとめたりしていく。古文には「竹取物語」のように、昔話のもととなった作品も多い。小学校低学年では昔話の絵本や読み聞かせ、小学校高学年では音読を中心とした古文の学習が行われることを踏まえ、中学校での古典の指導にあたる事が大切であると考えた。児童生徒だけでなく、小中の教師も交流し、古典を楽しみながら親しむ態度を育てていきたい。	水戸教育事務所 指導主事 菅又 章雄
	発表者 茨城県立並木 中等教育学校 教諭 塚崎 浩子	生涯にわたって豊かな読書をしていこうとする児童・生徒の育成 —ブック・クラブを核とした系統的指導を通して— 本部会では、読書指導において、身に付けさせたい力を明確にしたうえで、ブック・クラブを手立てとした授業を小学校から中学校まで系統的に指導していけば、言葉の豊かさに触れ、自らの言語生活を充実させながら生涯にわたって読書をしていこうとする児童・生徒が育成されると考え研究を進めてきた。当日は、「生涯読書に向けたブック・クラブの系統表」に基づいて行った2つの実践から得られた成果と課題を発表する。	つくば市 教育委員会 指導主事 山田 仁巳

●他県発表者・指導助言者一覧

分科会	県名	発表者	指導助言者
第1分科会	栃木県	那須郡那珂川町立小川中学校 教諭 鈴木 昭信	那須烏山市教育委員会 指導支援担当課長補佐兼総括 藤田 繁
第2分科会	千葉県	鎌ヶ谷市立第二中学校 教諭 渡邊 保子	鎌ヶ谷市教育委員会 指導主事 飯塚 博文
第3分科会	神奈川県	伊勢原市立成瀬中学校 教諭 佐藤 明子	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校 副校長 青木 弘
第4分科会	東京都	豊島区立千登世橋中学校 教諭 加藤 則之	玉川大学 客員教授 吉田 和夫
第5分科会	群馬県	桐生市立黒保根中学校 教諭 金谷 直敏 他2名	桐生市教育委員会 指導主事 山越 達也
第6分科会	埼玉県	川口市立芝中学校 教諭 山澄 智英	久喜市立栗橋西中学校 校長 秋山 聡
第7分科会	※他県発表はございません。		